

今治・伯方島 NPO法人がコミュニティースペース

移住の子らも笑顔に



名札作りに没頭する子どもたち

住民主体による誰もが住みやすいまちづくりを目指して、今治市の伯方島で活動しているNPO法人「創作クラブGrian」がこのほど、同市伯方町北浦の集会所「鎮守の杜（もり）」で島内の子ども向けにコミュニティースペースを立ち上げた。地元ボランティアらと協力し、週3回学習サポートやワークショップなどを開いている。

市によると9月末現在、伯方島の人口5602人のうち外国人は287人。多くが島内の造船会社で働いており、同市島しょ部では突出して多い。Grianの田窪良子代表は、「言葉の壁や家庭環境などでない第三の場所」として法人が活動拠点にしている集会所を使い、コミュニティースペース「ちんじゅのもり」を開所した。 「ちんじゅのもり」は日

地元ボランティアらと協力 学習支援やワークショップ



田窪代表(中央奥)とサンドイッチ作りを楽しむ子どもたち

週月、金土曜日に活動。子ども向けに勉強の見守りや料理作りをするほか、食事マナーやごみの出し方など日常生活に根付いた内容を教える。今後、不定期で外国人対象の日本語・方言教室や高齢者へのスマートフォン教室などを開く方針だ。開所日の10月15日には4人家族1組が参加。子どもたちは田窪代表らメンバーと名札作りをしたり、ごみの分別方法を学んだりしたほか、インシシ肉を挟んだサンドイッチを一緒に調理して親睦を深めていた。4月に松山市から引っ越してきた伯方小学校2年の山本朔太郎君(8)は「みんなでおいしいサンドイッチを作れた。楽しかったからまた来たい」とにっこり。母親の百里さん(38)は「地域になじむきっかけとしてこういう場所があるのはありがたい」と安心した表情を見せた。田窪代表は「子どもの個性を育みのびのびとられる環境をつくるのが大人の役割。これからも笑顔で帰れる場所にしたい」と話した。「ちんじゅのもり」の利用時間は月、金曜が午後3時～7時、土曜は同2～6時で、伯方島の子どもは無料。ボランティアも募集している。利用申し込み、問い合わせはメール(grian2255@gmail.com)か、(石田一真)